

今、振り返る教師としての原点

私を育てた  
あの時代、あの出会い

# 追い越したいと思う師の存在が 私の授業力を高めてくれた

岐阜県・私立中京高校

神戸忠かんべ一

「この人になりたい」という思いは、努力し続けるための大きなモチベーションになる。そして憧れが「この人に勝ちたい」という目標に変わった時、そのモチベーションは更に大きくなる……。神戸先生が、先輩であり恩師でもある松浦先生を追い掛け続ける日々を語る。

## 「授業」の難しさを知る



松浦速人先生は、中京高校在学中の私に日本史を教えてください

さった恩師です。20代半ばで体も声も大きかった松浦先生は、やんちゃな生徒からも一目置かれる存在でした。しかし、そんな松浦先生に対して、当時、日本史の楽しさの虜になり、特に入れ込んで勉強していた私は、特別進学クラスの授業を担当し始めて日の浅い先生をつかまえては、参考書で仕入れた知識を基に質問して先生をちよっと困らせてみるという、意地悪なことをしていました。ただ、そんな私の行動に対しても松浦先生

は、「今は分からないから、次の授業までに調べてくる」とおっしゃって、そして約束通りの授業で必ず説明してくださいました。

数年後、母校の教壇に立つて分かったのは、自分が理解することと、生徒に理解させることは別ものだという事です。特に、日本史が苦手な生徒に歴史の流れを理解させるにはどうすればよいか、とても悩みました。定期テストの結果を見る度、授業力の無さを痛感し、肩を落しました。新任からの3年間は悪戦苦闘の日々でした。

成績を上げる生徒も育ち、「これで松浦先生に並んだ」と思い始めた頃、松浦先生から引き継いだクラスで自分の授業の感想を聞いてみました。「正直に言うてー」と促す私に、ある生徒が「本当に正直に言ってもいいですか？」と申し訳なさそうな表情を浮かべながら、「松浦先生の方が教え方がずっと上手です」と小さな声で答えました。

落ち込んで職員室に戻り、松浦先生に全てを話すと、先生は「自分にも同じ経験があるよ」と私におっしゃいました。私は、自分が生徒だった時に、松浦先生にしてきたことを気恥ずかしく思い出していました。そして、そんな私を松浦先生は、「自信を持って、これまで通り熱意あ



神戸先生が生徒としていた特別進学クラスを教えた

## 先輩教師の言葉

生徒が変わるのだから  
授業準備にも  
終わりはありません

岐阜県・私立中京高校  
松浦速人

る授業をすればいいよ」と励ましてくださったのです。  
真似て、追い越したい  
松浦先生に追い付きたい。私は心からそう思いました。自分に何が足りないかをはっきりさせるためには、自分だけを見つめていても駄目だと考え、松浦先生の授業を見学し、先生が作ったプリントを分析しました。職員室で松浦先生が生徒の質問に答える言葉にも耳をそばだてる程で、松浦先生の全てを盗もうと思っていました。  
松浦先生の授業ノートを見た時、「これだけしか教えていないのか」と驚きました。これでは生徒は伸びないのでは……。しかし実際に先生のノートを基

左 まつうら・はやと 地歴公民科。中京短期大学勤務を経て、中京高校へ。今年度で勤続 33 年目。

右 かんべ・ただかず 地歴公民科。初任以来、中京高校に勤務。今年度で勤続 22 年目。同校の卒業生でもある。

撮影◎中京高校にて



に授業をすると、生徒は実によく理解するのです。必要なものだけを残し、シンプルに教えることで、より理解が深まることに、私は初めて気が付きました。自分の授業が本当に変わってきたのは7年目くらいからです。日本史が得意な子は手を掛けなくても伸び、苦手な子も「分かった」という表情を見せるようになりました。底上げをする

ことで上位層も伸びる授業が出来るようになったと思います。教職22年目を迎えた今、松浦先生に追い付いてきたと思うこともありますが、同時に、超えられないという部分もたくさんあります。模試の設問別成績を分析すると、「きつとあの授業で自分が曖昧曖昧に説明したから、松浦先生と差がついてしまったのだ」といったことがよく分か

ります。1コマの授業での自分の甘さが、生徒の成績に表れてしまう現実に向き合いながら、松浦先生を追い掛けています。松浦先生と私は授業スタイルは異なりますが、真似るべきところはたくさんあります。先生は毎年ノートやプリントを改訂しますから、私もそうしています。空き時間を見つけては入試問題を解く姿を見ると、負けら

れないと思います。先生から「〇しなさい」と言われたことは一度もありませんが、その姿から多くを今も学んでいます。尊敬する松浦先生ですが、いつの日か、全てにおいて先生を上回り、完膚なきまでに勝利したいですね。そんな気持ちを素直に持ち続けられるのは、松浦先生が私にとって今も変わらず「先生」だからだと思います。

多くの知識を得たら、次に余計なものを削ぎ落とし、シンプルにする作業が必要です。これだけを理解すれば、他のことも理解したくなる……目指すのは「軸」を教える授業です。だから、私は神戸先生の授業を見学するなど、今も勉強を続けています。もちろん、長年日本史を教えていれば、大抵のことは分かるようになります。しかし、どのように教えればよく理解できるかという意味での教材研究には終わりはないと思います。最近の生徒は語彙力が乏しいと言われていますが、生徒に説明する時の言葉は、以前とは違ってくることもあるはず。だから私は、授業ノートやプリントを毎年改訂しますし、今回の新課程に当たっては、そのほとんどを作り替えました。そのため、授業の準備が更に大変になりましたが、その分、新しい発見も多くありました。今も自分の授業は反省点ばかりですし、職員室に戻って落ち込むこともあります。十分な準備をしないで教壇に立つことは、恐ろしくて出来ません。だからこれからも、地道に教材研究を続けようと思っています。